

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	認知症高齢者見守り(学習会)事業	会計	介護保険	事業No.	232	施策順No.	35-041
		事業種別	政策・その他	予算科目	5-2-1-50-5		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名		介護高齢課			
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	12	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	認知症高齢者が安心して地域で暮らせるようになる							
	対象をどう変えるか	学習会対象者(認知症高齢者を除く10歳以上80歳未満の市民)数		86465	85432	84676	84500		
	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	対象をどう変えるか	学習会参加者の累計/対象者数×100 %	1	1	2.9	2	2.4	2	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		キャラバン・メイトの継続的な活動により、目標数を上回る多数の学習会参加者があった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	認知症に対する家族、地域住民の偏見や無理解の解消を図るため、講演会や学習会を開催して啓発活動を行い、認知症となっても住み慣れた地域で「自分らしい暮らし」ができるよう支援する体制づくりをめざす。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	認知症の知識・理解を深めるための講演会や学習会を開催する。 1 認知症講演会 2 認知症学習会(サポーター養成講座含む) 3 キャラバンメイトの研修会	1 講演会参加者数 2 学習会回数・参加者数 3 研修会参加者数	1 188人 2 58回・1849人 3 41人
23年度実施計画	認知症の知識・理解を深めるための講演会や学習会を開催する。 1 認知症講演会 2 学習会(認知症サポーター養成講座含む) 3 キャラバンメイトの研修会	1 講演会参加者数 2 学習会回数・参加者数 3 研修会参加者数	1 200人 2 50回・1500人 3 40人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	地域支援事業交付金の任意事業 国40% 県20% 市20% 1号保険料20%
	国庫支出金		356	136	156	
	県支出金		178	68	78	
	起債					
	その他					
一般財源		356	137	156		
計(A)		890	341	390	特定財源内訳、補足事項	
正規職員所要時間			200			
臨時職員等所要時間			60			
人件費計(B)			780			
トータルコスト A+B			1,121			

4 事業に対する市民や議会の意見

認知症に対する認識の深まる学習会の強化が望まれている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標
	安心していきいき暮らせる	安心して暮らせる高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	認知症となっても安心して暮らせるために、認知症に対する理解を深めるための講演会や学習会を開催して啓発ができています。
	後期に向けた課題	対象者を拡大してより多くの市民に啓発していく。
この事務事業の成果を向上させるためにどの ような工夫をしましたか	4年間の振り返り	啓発のための学習会の講師役となるキャラバンメイトを毎年養成してきた。
	後期に向けた課題	キャラバンメイトの強化を図る。
コストを削減するためにどの ような工夫をしましたか	4年間の振り返り	学習会の開催には一定の経費が必要であり、コスト削減はできなかった。
	後期に向けた課題	学習会の開催には一定の経費が必要であり、今後も削減は難しい。
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受講者に対しては負担を求めず啓発してきた。
	後期に向けた課題	受講者に対しては負担を求めず啓発していきたい。
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	キャラバンメイトが地域の中での啓発活動の担い手となっている。 行政:メイトの養成と強化を図ってきた。
	後期に向けた課題	キャラバンメイトの強化を図り、地域の中での啓発活動を推進していく。
全体を通じて	4年間の振り返り	キャラバンメイトによって認知症サポーター養成講座を各地で開催してもらい、4年間で4,000人の認知症サポーターが誕生している。
	後期に向けた課題	高齢化社会の未来を支えていく小学校・中学校・高校の若年層へと対象者を拡大し、認知症サポーターをさらに増やしていく。

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------